

# 牧野信一

Shinichi Makino

## 生誕120年

# 牧野邦夫

Kunio Makino

## 没後30年



### 記念イベント

— 小田原出身・いここ同士の二人の傑出した芸術家を偲んで —

本年は、小田原出身の作家牧野信一の生誕120年（没後80年）、その従弟にあたる画家牧野邦夫の没後30年にあたります。日本美術・現代美術の枠を超え幅広く活躍・発言し、2013年の牧野邦夫展開催に尽力された山下裕二先生、文芸朗読の第一人者である薮英治氏の協力を得て、ゆかりの地である小田原で記念イベントを開催します。

[主催] 牧野信一の文学をたたえる会

[参加費] ●両日参加の方：1,600円

●一日参加の方：各900円（当日参加の方は各1000円）

※事前申込み制。定員（99名）に達し次第締め切りとなります。

※お申込み・問合せ：[東京]042-440-7772（コネクト内）/[小田原]090-5409-3701（小泉方）

[後援] 小田原市 / 小田原市教育委員会 / 西さがみ文化フォーラム / 西さがみ文芸愛好会 / 小田原ペンクラブ / 北村透谷を偲ぶ会 / 小田原の城と緑を考える会

[協力] グローブ文芸シアター / 牧野信一WEBサイト『続・西部劇通信』 / コネクト株式会社

4月16日(土)

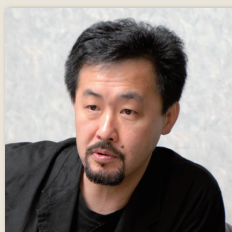
### 講演 牧野邦夫の画業について～リアリズム・幻視・土俗性～

4月16日(土) 午後2時～4時

講演：牧野邦夫の画業について  
～リアリズム・幻視・土俗性～

講師：山下裕二氏

会場：小田原市民会館6F 第7会議室  
※終了後にアオキ画廊 牧野邦夫 油彩・素描展を見学予定



山下裕二（やましたゆうじ）

1958年広島県生まれ。美術史家。明治学院大学文学部芸術学科教授。もともと室町時代の水墨画を専門にしていたが、縄文から現代美術まで、歴史に埋もれてしまった作家の再評価や、価値の定まらない作品の発掘などを行い、世に紹介する活動を続けている。2011年には江戸東京博物館「五百羅漢」展を監修し、知られざる画家・狩野一信を世に出した。2013年4月～6月練馬区立美術館開催の「牧野邦夫―写実の精髓―展」実現にも尽力した。

4月17日(日)

### 記念朗読会「熱海線私語」～牧野作品から浮かび上がる小田原の近代～

4月17日(日) 午後2時～5時

記念朗読会：「熱海線私語」  
牧野作品から浮かび上がる小田原の近代

朗読：薮英治氏

会場：小田原市民会館6F 第7会議室



薮 英治（しとみえいじ）

福島県出身。シェイクスピア・シアターに約10年在籍、退団後文学作品の朗読、演出を始める。牧野信一作品は、これまで10数本朗読。小田原での牧野作品の朗読は2008年「心象風景」「ゼーロン」より5回目。

他の主な朗読作家：ディケンズ、チェーホフ、中原中也、宮沢賢治  
朗読劇演出作品：「マクベス」、「ハムレット」、「ロミオとジュリエット」、「クリスマス・キャロル」、「復活」（トルストイ）等

友情出演！

口上：女鹿伸樹氏

「外郎（ういろ）売り」二代目市川團十郎・初演歌舞伎十八番より

女鹿伸樹（めがのぶき）（株）大沢事務所所属

札幌出身。劇団青年座研究所二期卒。朗読作品は、太宰治、芥川龍之介、他  
2013年より薮英治・演出 グローブ文芸朗読会「クリスマス・キャロル」出演中。  
TV・ラジオ・CM 番組ナレーター。WEB上でのナレーション作品も多数。

小田原で初の牧野邦夫油彩・素描展を同時開催！

[会期] 4月16日(土)～18日(月)11:00～18:00(最終日16:00)

[会場] アオキ画廊 神奈川県小田原市栄町2丁目13-20

## 初めての「牧野信一・牧野邦夫合同イベント」を小田原で開催！

今年、生誕 120 年を迎える作家牧野信一（1896-1936）は生まれ育った小田原の地と終生関係を持ちながら、小田原市およびその周辺地域を舞台とした多くの傑出した短篇小说を発表し、当時の文学界で活躍しましたが、昭和 11（1936）年 3 月に自殺しました。戦後小田原では彼の文学を慕う人々により、記念誌「サクラの花びら」発刊、「牧野信一文学碑」建立など作家を顕彰する記念事業が行われています。さらに時が経過し、信一の生誕百年にあたる 1996 年には小田原・東京（早稲田大学小野記念講堂）で記念シンポジウム・講演会等が開催されました。

同じ 1996 年、画家牧野邦夫（1925-1986）の「没後 10 年展」が東京青山（永井画廊）で開催されました。牧野邦夫は信一の父久雄の弟義郎の次男であり、信一とは約 30 歳違いの従弟（いとこ）の関係にあたります。邦夫は幼少期を通称「鍋弦（なべつる）小路」（現在の小田原駅西口）で過ごし、城内小学校に入学後、父が洋装業を営む東京に移りました。しかし、昭和 10（1935）年 12 月父義郎が死去、その葬儀には、翌年 3 月自殺する事となる信一も駆けつけたといいます。昭和 20（1945）年 3 月、兄弟姉妹は空襲激化する東京から再び小田原に戻ります。邦夫は 5 月学徒動員で出征し 8 月九州・都城で終戦を迎え小田原に帰ってきます。小田原から美校（現在の東京藝大）を卒業した邦夫は、団体展等に所属せずひたすら自己の信ずる絵画世界を追及する創作活動を貫き、1986 年癌のため東京で没しますが、その画業は 1990～91 年の朝日新聞社主催の巡回展（東京など 5 か所）、2013 年の回顧展（練馬区立美術館）を通じ、見るものに大きな衝撃を与えています。

このたび、同じ祖父を持ち、小田原で育った二人の芸術家に思いを寄せる初の試みとして、本イベントを開催します。

### 牧野信一（1896～1936）

早稲田大学在学中、同人誌『十三人』に発表した処女作「爪」を島崎藤村に褒められ、しだいに作家を志す。幼い頃に渡米後、帰国して小田原に戻った父を題材にした「父を売る子」「父の百か日前後」など私小説的作風から、昭和初期には「鱗雲」「ゼーロン」「鬼涙村」など小田原地方を舞台とした独自で幻想的な作品を次々に発表するとともに、文芸誌『文科』を主宰するなど活躍したが、昭和 11（1936）年 3 月、小田原の実家で自殺。

### 小説「熱海線私語」について

牧野信一が生まれた明治 29 年、「人車鉄道」が開通し、小田原に「鉄道の時代」が到来した。それ以降「軽便鉄道」「熱海線」「丹那トンネル」…次々とめまぐるしく変貌する小田原～熱海の地で、彼の一族がいかなる生活をしていたか？ユーモアとペースをふんだんに交え、描き出した聞きごたえ十分の傑作。昭和 10 年 12 月「日本評論」に発表。

### 牧野邦夫（1925～1986）

東京都（現在の渋谷区幡ヶ谷）で生まれたが、幼少期の一時を小田原で育つ。戦時中再び小田原に疎開し、美校（現東京藝術大学）に通い、昭和 23（1948）年同油画科卒業。当初グループ展に作品を発表した以外は、団体展等に所属せず個展を中心に創作活動を展開。昭和 61（1986）年、癌により急逝。その精緻かつイメージに富む作品群は平成 25（2013）年練馬区立美術館での回顧展で大きな反響を呼んだ。



牧野邦夫作「海と戦さ」（1975 年 / 194cm×97cm）

### INFORMATION

- 両日とも会場では、牧野信一・牧野邦夫の作品や関連写真をプロジェクトで紹介いたします。
- イベント案内はこちら → [Facebook 牧野信一・牧野邦夫](#)で検索（※ 2月中旬より発信開始）
- お問い合わせはこちら → 東京:042-440-7772（コネクト内） / 小田原:090-5409-3071（小泉方）

同時開催！

## 小田原で初の牧野邦夫油彩・素描展

[会期] 4月16日（土）～18日（月）

[時間] 11:00～18:00（最終日～16:00）

[会場] アオキ画廊 神奈川県小田原市栄町2丁目13-20



（右）牧野邦夫作「大坊珈琲店の午後」

